ninoyu satoshi
発行所:自由民主党京都府参議院選挙区第三支部
〒615-0062 京都市右京区西院坤町2
ハウスドゥ四条ビル601
TEL.075-315-2228 FAX.075-315-2310
発行人:二ノ湯 智
国会事務所
〒100-8962 東京都千代田区永田町2-1-1
参議院議員会館921号室
TEL.03-6550-0921 FAX.03-6551-0921

えとす(Ethos)とは、文化や習慣を意味し、豊かな精神をはぐくみ、平和を希望する言葉です。　題字:栢木寛照

えとす

平成29年 No.299 11月号

京都の智恵を日本に活かす。

二ノ湯智ホームページ http://www.ninoyusatoshi.com

信頼が深まったトランプ大統領訪日
日米共同で北朝鮮問題に対処

待ち受ける内政での野党の追及

安倍首相は総選挙の疲れを癒やす暇(いとま)もなく、積極的に外交を繰り広げている。11月5、6日にアメリカのトランプ大統領が来日した。両首脳はゴルフを楽しみ、打ち解けた雰囲気の中で、北朝鮮、インド太平洋安全保障、日米経済問題について話し合った。両首脳の個人的な信頼関係もあり、今回の大統領の訪日は今後の日米関係にかなりの成果を上げたのではないか。11月10～11日はダナン(ベトナム)のアジア太平洋経済協力首脳会議、12～14日にはマニラでのアセアン首脳会議に出席、プーチン・ロシア大統領、習近平・中国国家主席、ドゥテルテ・フィリッピン大統領、モディ・インド首相など各国首脳と2国間会談を行い、北朝鮮の脅威を訴え、北朝鮮への圧力を強めるよう求めた。国際会議を利用して、積極的な外交を展開し、外交の安倍の姿を鮮明に国民に示した。国会は17日に衆参で所信表明が行われ、20、21、22日の本会議で代表質問、その後予算委員会では野党の厳しい質問が待っている。

首脳会談を終え記者会見に臨む(出典:首相官邸ホームページ)

恒心

「先日、京都事務所へ通う電車の中で、立っている初老の男性が、座席に腰かけている2人の若い女性に向かって、なにがしか文句を言っていた。何を言っているのか、耳を澄ましていると、「これが読めないのか」と言っている。★度々言っているので、向かい側に座っていた男性が、その初老の男性に、席を譲ろうと立ち上がった。初老の男性は、それを振り切り、なおも言い続けていた。女性の1人が、気まずくなったのか、席を立って行った。★次の駅で、女性が座っている席を見たら、席の後方に優先座席(シルバーシート)とプレートが貼ってあった。なるほど、男性がぶつぶつ言っていたのは、前に老人がいることを無視して、平気で座っている女性に抗議していたことが分かった。★中央線でも同じ光景を見かけた。東京駅から2人の幼い子供を連れた母親が乗ってきた。1人の子は席に座れた。もう1人の子は眠たいのか、母親に持たれ掛かっていた。前の席には、若いカップルが、気にも止めず話に夢中であった。どちらかが気を利かして、席を譲るであろうと期待していたが、私が降りるまで、それはならなかった。★大学入学試験の際、「責任」というテーマで、論文テストがあった。55年前のことで、何を書いたかは、記憶は定かでないが、老人、女性、幼児などを労わることも若い者の責任の1つではないかと書いたことを思い出した。★日本人は、本来、他人を思いやる優しい心根(こころね)を持つ民族ではなかったのか。電車の中での一光景ではあるが、最近若者の公徳心のなさが顕著である。これから超高齢化時代を迎える日本。公徳心、とりわけ敬老精神が失われたら、どうなるのか本当に心配である。

自民党憲法改正推進本部
合区解消問題から議論を始める

平成25年夏に行われた参議院通常選挙は、1票の格差が、4・75となっており、平成26年11月の最高裁判所判決で、投票価値の不均衡は違憲状態であり、都道府県単位の選挙制度を改めるなど、違憲状態を速やかに解消することが求められた。これを受け、各会派において調整を図った結果、都道府県単位の選挙制度を一部改め、4県2合区を含む10増10減案の公職選挙法の改正案が成立した。これによって、1票の格差は、4・75倍から2・97倍に縮小された。合区された選挙区は、鳥取県及び島根県、徳島県及び高知県の4県である。昨年7月の参議院選挙は、改正された公職選挙法に基づいて、新しい選挙区制度で執行された。しかし、この選挙でも、最大3・08倍の1票の格差が生じた。2つの弁護士グループが憲法違反だとして選挙無効を求めた。最高裁大法廷判決では、合区という方法をとって、格差是正を行った立法府の決意を評価して、違憲の問題が生ずるほど不平等状態ではないとした。それでも、今後1票の格差は拡大することが予想され、合区は避けられないかも知れない。合区で選挙を戦った議員はもちろん、合区対象となった徳島、高知そして鳥取、島根県民からは選挙区が広すぎる、地元の声が国政に届かないなどの悲痛な声が挙がってきた。しかも、有権者の選挙への関心が非常に低くなっている。地元自治体だけでなく、全国地方6団体も合区に反対している。合区を避けるためには、憲法を改正して、参議院は都道府県を選挙区とする必要がある。自民党は1昨年の参議院選挙、先の総選挙でも、合区解消の為、都道府県から少なくとも1人が選出されることを前提に憲法改正すると公約している。自衛隊の明記、教育の無償化・充実強化、緊急事態対応、参議院の合区解消の4つの項目は最重要な憲法改正項目である。従来憲法改正と言えば、第9条の改正が先ず第一と考えられてきたが、参議院自民党議員団は、合区解消こそ優先だと主張、自民党憲法改正推進本部では、合区問題を最優先に取り上げることにした。憲法47条に「参議院は改選毎に、広域的な地方公共団体から、少なくとも1名が選出される」と盛り込み、92条で「広域的な地方公共団体とは都道府県を指す」とする規定を加えることを明確にする。次の参議院選挙は、1年8か月後に迫っている。憲法改正までに残された時間は多くない。参議院の定数を大幅に増やせば問題は一挙に解決するが、今日の世論の中で、それは難しい選択である。早急に党内の意見を取りまとめ、友党公明党、さらに野党にも賛同を働きかけ、憲法改正に取り組まなければならない。極めて難しい作業である。

地方議会年金制度の創設
必要な地方議員の身分の安定

国会議員を10年務めれば年金受給資格が与えられる制度は、特権的だと批判されて、平成18年4月に国会議員の年金制度が廃止された。民間の年金制度と比較すれば、10年はいかにも短すぎる。都道府県会議員、市議会議員、町村会議員にも年金共済会があって、年金制度を独自に運営していた。いずれも3期12年間議員を務めれば、年金の受給資格が与えられた。地方議会議員の年金も民間と比べると、特権的だと言われた。地方議会年金制度は町村合併による議員定数の減少、受給者の増大と長寿化によって、財政が破たんして、平成23年6月に廃止された。今は、国会も、地方議会も年金制度がなく、事業を経営している人や労働組合などで、他の年金制度に加入している人以外、議員は全て無年金者である。もし落選すれば、たちまち生活に困る人が、続出するのではないか、非常に不安定な身分制度であることは事実である。したがって、国会議員はさておき、地方議員になりたい気持を持っていても、年金も退職金もない世界に若い人が入ってこないのが現実である。立候補者が定数に満たない地方議会が増えてきている。このままの状態を放置すれば、生活に困らない程度の年金等の収入があり、議会の報酬を政治活動に充てることが出来る人以外、地方議会議員になることが出来なくなる。したがって、地方議会議員の高齢化が益々進んでいくことになる。現在、町村会議員の平均年齢63・1才、市会議員は59・2才となっている。学者や有識者の中には、地方議会は平日の夜間や土、日曜日に開会すれば、サラリーマンでも議員は出来る、だから年金制度などいらないと簡単に言うが、議員活動はそんな生易しいものではない。議員の身分の安定化、地方議会の活性化、若い人の議会への進出を促すために、地方議会議員にも年金制度に加入できる道を開くべきだという声が急速に高まってきた。もちろんかってのような特権的な年金制度ではなくて、議員在任中は、地方公共団体の職員とみなして、地方公務員共済組合の組合員となって、厚生年金加入の資格を取得出来るようにする。しかし、退職金は貰えない。議員になる前に厚生年金に入っていれば、継続出来、議員を止めて会社勤めをすれば再び継続出来る。一般社会で当たり前のことであるが、いまなお世論の理解が得られていない。11月21日、都道府県議長会、市議会議長会、町村議長会の代表から、自民党参議院議員団に地方議会議員年金制度創設の要望があり、橋本聖子団長、武見敬三政審会長、二ノ湯議員らが応対し、各会派の協力を得ながら、早急に制度創設に向けて前向きに取り組んでいくことを約束した。

特別国会での記念写真

11月1日に召集された特別国会は、8日に天皇陛下をお迎えし、開会式が行われた。当日、委員長はモーニングを着用し、国会正面玄関で陛下をお出迎えし、お帰りの際には、お見送りをしなければならない。陛下がお帰りになった後、折角の機会と国会正面玄関で、議長、副議長、各委員長が一同に会し、記念写真を撮った。

第195回国会記念写真

特別国会召集、会期39日間 京都の新人議員初登院

第195回特別国会は、11月1日に召集され、12月9日まで、39日間の会期を決定した。総選挙後の初めての国会であり、京都5区から当選した本田太郎、京都2区で出馬したが惜敗し、比例復活した繁本護の両氏は、緊張の面持ちで初登院した。2人は何れも40代前半の若さ。今後当選を重ね、経験を積んで行けば、国政はもとより、地元京都の発展にも大いに貢献するものと期待されている。両氏は心新たに今後の抱負と決意を語ってくれた。

京都2区・繁本 護氏

和服姿も凛々(りり)しい繁本氏

「この度の衆院選では力強い皆様のご支援のおかげで、京都2区から約8年ぶりに自民党の議席を確保することができました。心から感謝を申し上げます。投票日の翌日から台風21号による被害対応に取り組んでいます。責任与党の強みとこれまでの経験・人脈を生かし京都の為に一生懸命に汗を流して参る覚悟です。2期連続当選に向けて更なるご支援を宜しくお願い申し上げます。」

京都5区・本田太郎氏

やや緊張した面持ちの本田氏

「暖かいご支援を賜わり、当選させていただきましたことに対し衷心より御礼申し上げます。国民の財産と暮らしを守り、地域や経済の活性化のため、粉骨砕身尽くして参る所存ですので宜しくお願い申し上げます。」

朝鮮通信使世界記憶遺産に登録 ゆかりの自治体で祝賀会

朝鮮王朝と日本との交流は、足利義満の室町時代まで遡(さかのぼ)る。室町期には3回、豊臣秀吉時代には2回、朝鮮から通信使が派遣されてきたが、秀吉の文禄の役、慶長の役による朝鮮への侵攻によって、その後両国の間は断絶状態になった。江戸期に入ると、我が国と李氏朝鮮との国交回復機運が高まってきた。1607年、江戸時代初めての通信使が派遣され、将軍秀忠、駿府に隠居していた家康にも謁見している。以後、1811年までに12回の通信使が日本を訪れ、その間我が国の食文化、医学、文芸、書画、工芸、芸能などの分野に、多くの影響を与えた。通信使が行列した沿道地域には、通信使に関する資料が残っており、韓国にもある。これらを世界記憶遺産に登録しようという機運が日韓双方関係者から起こり、去る10月31日にユネスコ本部から、世界遺産に登録すると発表された。タイミング良く、11月18日、19日の両日、京都で「朝鮮通信使ゆかりのまち全国交流会2017京都大会」が開催され、18日の夜、京都ホテルで交流晩餐会があり、その席に林文科大臣もお祝いに駆けつけ、世界記憶遺産登録に努力した関係者の労をねぎらった。

二ノ湯京都日韓親善協会理事長

林文部科学大臣

中島武文氏府会議員に初当選
本田代議士の議席を守る

11月19日に投開票された宮津市与謝郡選挙区の京都府議会補欠選挙は、自民党公認、公明推薦候補の新人中島武文(33)氏と、無所属の前与謝野町長の太田あつみ(71)氏の一騎打ちの戦いとなった。与謝野町は中島氏の地元・宮津市よりも有権者が多く、事前ではかなりの接戦になると予想されたが、中島氏は若さを前面に打ち出し、将来の丹後地域の発展に力を尽くしたいと訴えた。終盤になって、中島氏の知名度も浸透し、太田氏の地盤の与謝野町でもかなり健闘、中島氏が強敵太田氏を大きく引き離し、初当選を飾り、衆議院に転出した本田太郎氏の議席を守った。

当選した中島氏の喜びの声

「皆様のご支援のおかげで当選させていただきました。応援いただいた方に胸を張って「中島を応援してよかった」と言ってもらえるように、そして、宮津市・伊根町・与謝野町の未来を創っていけるよう精一杯頑張ります。」

必勝のダルマに眼を入れる中島武文氏

自民党
政経文化懇談会のお知らせ

10月の衆議院総選挙では皆様の温かいご支援をいただき誠に有難うございました。お陰様で京都においては、1区から6区まで代議士を誕生させることができました。今後は政権与党の議員として、2人の参議院議員とお互いに協力し、京都と日本の為に、力を尽くしてまいりたいと思っております。この度、自民党京都府連では慣例の「政経文化懇話会」を開催することになりました。厳しい経済事情の中、誠に恐縮ですが、ぜひともご協力下さいますようお願い申し上げます。

◆日時　平成30年2月12日(月・祝)

■午後1時から　時局講演会

講師　元内閣総理大臣補佐官

岡本行夫先生

■午後2時30分から　懇親パーティー

◆場所　**国立京都国際会館**(京都市左京区宝ヶ池)

◆会費　3万円

☆お問合せ、お申し込みは二ノ湯さとし事務所まで

TEL075-315-2228　FAX075-315-2310

身辺雑記

一、神奈川県座間市のアパートで、9人の腐乱したバラバラ遺体が見つかった。捜査の結果、犠牲者は若い女性8人・男性1人であった。犯人は27才の若い男性。一体、何の目的で若い命を奪ったのか。空恐ろしい猟奇事件である。

一、トランプ大統領が、来日早々、東京オリンピックのゴルフ会場となる霞ヶ関カンツリー倶楽部で、安倍首相、松山英樹プロと、コースを回った。一緒にプレイした松山選手は光栄であると同時に、随分と緊張したことだろう。

一、11月9日、園遊会が開催され、約2300人が、招待された。私も久しぶりに家内と参列した。私達は、京都市会議長、米原市長夫妻と同じ場所で、待機していた。両陛下は、市会議長、市長に声を掛けられ、2人とも満足気であった。

一、京都出身歌手青山和子さんの「愛と死を見つめて」は、我々の青春時代に大ヒットした歌。先日、中学校の同級生達が上京、池袋にある青山さんの店に行き、彼女がデュエットに応じ、懐かしい歌も披露してくれ、皆大喜びであった。

一、大相撲の横綱と言えば、若いけれど品格と力量が兼ね備わった力士としてのイメージがある。今回の日馬富士の暴力は、横綱の権威を低下させかねないゆゆしき事件である。協会も相撲ファンに納得のいく処置をとる必要がある。

一、小池東京都知事が都政に専念するために希望の党の代表を辞任した。「日本に、未来に希望を生む」と、希望の党を立ち上げたのではないのか。総選挙で敗北したから、直ちに政党の代表を辞任するとは、あまりにも無責任すぎる。

「新政経懇話会」入会のお願い

「新政経懇話会」では、機関紙「えとす」の発行をはじめ、二ノ湯さとしの政治活動をご支援いただける会員を募集しております。

是非、二ノ湯さとしの政治理念と主張にご賛同いただき、ご入会下さいますようお願い申し上げます。

新政経懇話会

年会費　1口1万円

入会申込・お問い合わせ先

二ノ湯さとし事務所　☎075-315-2228

新春招福バスツアー

第31回 伊勢神宮初詣

◇旅行日　平成30年1月8日(月・祝)

◇昼食場所　戸田家

◇会費　10,000円

◇申込先　初詣実行委員会(二ノ湯さとし事務所内)　TEL(075)315-2228
またはアサカ観光社　TEL(075)821-0650

初詣実行委員会